

いざ実践！ 節電生活



小さな取り組みの積み重ねで
環境と家計にやさしさを

節電への取り組み方は各家庭での生活スタイルにより異なっています。

日々の生活習慣を変えることは、難しいものと感じている方も多いと思いますが、ムダなものはないか、ひと工夫できることはないか自身の生活を省みて、無理なく実践できることから始めてみましょう。また、家族が取り組みに協力して参加することで、小さな行動が大きな効果となって現れてきます。今回の節電の呼びかけは「電力供給量の不足」によるものですが、同時に考えなければならぬことは、地球環境にやさしい生活を送ることです。また「家計へのやさしさ」にもつながります。家族ぐるみで節電に取り組みみましょう。

自分の生活をチェック

左のページは、7%程度の削減を目標として、各家庭で節電に取り組む際に目安を示したものです（資源エネルギー庁推計）。自身の電化製品の使用状況を見ながら、合計して7%以上となるように取り組んでみましょう。

お知らせ

住宅用太陽光発電システムを設置する方に補助しています

助成額 1kw当たり4万円に、対象システムを構成する太陽電池の最大出力を乗じて得た額以内 ※上限は12万円

対象 次のいずれも該当する方 ・市内に自ら居住する住宅に対象システムの設置を予定している ・市税を滞納していない ・工事着工前である

申込書配布 環境保全課（旭町2丁目）、工業労政課、勇払出張所、植苗ファミリーセンター、各コミセン、環境保全課HP

申し込み 9月28日までに環境保全課（申し込み順・補助件数は100件程度）



無理はNO！

昨年の震災の影響で計画停電が行われたときには、過度な節電への取り組みから、熱中症になってしまつ方もありました。室内でも熱中症にかかる場合があります。苦小牧の「短い夏」であっても、適切な室温管理と水分補給に注意しましょう。特に、高齢者の方や、体調に不安がある方は十分に注意しましょう。無理せず、続けられる範囲で、取り組むことが一番大切です。

インタビュー



みんなで
できることを
コツコツと

ただ ようこ
多田 洋子さん
(字植苗在住)

昨年、市で実施している省エネコンテストに参加しています。自分が普段取り組んでいる節電活動などが、どれくらいの効果となって現れるのか、ほかの方はどのように取り組んでいるのか知りたいと思ったことが、コンテストに参加するきっかけでした。節電のアイデアは、新聞やテレビをヒントにすることもあります。主婦の視点で見ると、IHヒーターを使用している家庭であれば「圧力鍋」を使って調理時間を短縮するなど色々な方法があります。節電に継続して取り組むためには、自分の生活に合わせて無理なくできる範囲で、始めることが大切です。また、一人ではなく家族みんなで考え、協力し合って取り組むことも重要だと思います。

企業として、可能な限り
「節電」に取り組んでいます

苦小牧信用金庫
経営企画部 主席調査役

かわみち よしゆき
川道 佳幸さん



当金庫では、企業として環境に配慮した活動を積極的に進めてきました。この度の電力不足が懸念されることへの取り組みとして、全店舗において「節電対策」を実施しています。お客様のご理解・ご協力のもと、6月1日から9月30日までの間、営業時間の繰り上げや、店舗内照明の間引きなどを行い消費電力の削減に努めています。平成20年からは「とましんチャレンジ宣言」として、省エネへの取り組みも行ってきており、従業員の間でも節電意識が浸透してきていることから、この度の取り組みでは、対22年度比で15%の削減を目標に掲げて、可能な限りの節電を行ってまいります。

※苦小牧市では、節電などの環境活動に積極的な取り組みを行うエコオフィス宣言事業所を募集しています
詳細 環境保全課HP